

| 14 市民スポーツの振興 | | | |
|---------------|---|---|--------------|
| 主管課名 | 生活文化スポーツ部 スポーツ振興課 | | |
| 主管課長名 | 村上 法彦 | 電話番号 | 042-481-7508 |
| 関係課名 （組織順） | 福祉総務課, 高齢福祉担当, 障害福祉課, 健康推進課, 緑と公園課, 指導室, 社会教育課 | | |
| 目的 | 対象 | 市民 | |
| | 意図 | だれもがスポーツに親しみ、楽しむことができる スポーツを通して交流がはぐくまれる だれもがスポーツを通して心身ともに健康になる | |
| 施策の方向 | 年齢や障害等を問わず、広く市民がスポーツに親しみ、楽しめる環境を整備します。また、ラグビーワールドカップ2019™日本大会と東京2020大会を契機としたスポーツの振興を通して市民の交流が盛んになるまちを目指します。 | | |

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 令和元年度の振り返り — 取組実績（DO）

| 施策の成果向上に向けた主な取組実績 | |
|---|---|
| 施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信） | |
| <p>（14-1 スポーツ環境の整備）</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共建築物維持保全計画を踏まえ市民が安全で快適に利用できるよう、施設の整備・維持管理を実施した。 台風19号の影響により被害を受けた多摩川児童公園内運動施設のグラウンド修繕等を実施した。 調布市体育協会による、総合体育館の不具合への迅速な対応や、プログラムの実施による施設の効率的かつ効果的な活用を図った。 <p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」 ■連携テーマ4 「パラリンピックレガシーの創出」 施設のバリアフリー化（多摩川テニスコートクラブハウス・市民プール・西調布体育館・調布基地跡地運動広場） <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 「国際・全国スポーツ大会出場報奨金」を交付し、次世代アスリートを支援した。 | <p>（14-2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進）</p> <ul style="list-style-type: none"> 調布市体育協会の「リフレッシュ体操スクール事業」では、市民の運動習慣のきっかけづくりに寄与した。 調布市体育協会が行うセブンプログラムでは、幅広い市民へのスポーツの振興を図った。 調布市の三大スポーツイベントである第59回調布市民体育祭、第37回市民スポーツまつり、第64回調布市民駅伝競走大会では、多くの市民が参加し、市民へのスポーツの振興に寄与した。 学校開放事業では、体育館・校庭等の開放を行うことで、市民のスポーツ等の活動を行う場の提供を行った。 スポーツ推進委員会では、ニュースポーツや障害者スポーツの普及による市民スポーツの振興を図った。 ラグビーワールドカップ2019や東京2020大会を契機としたスポーツ振興を図るため、調布市体育協会や各競技団体等関係団体と連携し、様々な事業を実施することで、市民がスポーツを「する」・「みる」機会を創出した。 <p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> パラリンピックを契機とした障害者スポーツの振興による障害理解の促進と共生社会の実現に向け、障害福祉課や東京都、東京都障害者スポーツ協会と連携し、福祉分野とスポーツ分野の関係者による「調布市障害者スポーツの振興における協議体」を設置し実施した。 ■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」 各競技団体や関係団体と連携した体験会や講演会等の実施 ■連携テーマ4 「パラリンピックレガシーの創出」 「調布市障害者スポーツの振興における協議体」を3回開催し、障害者を取り巻くスポーツ環境について、現状と課題の共有を図った。 調和SHC倶楽部とスポーツ推進委員会と連携し、「東京都市町村ポッチャ大会」の予選会も兼ねたポッチャ交流会を実施し、パラリンピックを契機とした多摩地域のポッチャの普及に寄与した。 |

(14-3 FC東京等と連携したスポーツ振興等の推進)

- ・FC東京との連携において、市内のプロジェクトチームの活用や市内関係部署との情報交換会を開催し、FC東京との連携事業をスポーツ分野のみならず、青少年の健全育成、福祉、地域振興等の様々な分野で実施した。
- ・読売巨人軍やリクシルディアーズ、拓殖大学陸上競技部等各種スポーツ団体とも連携した事業を実施した。

①横断的連携による施策の推進

■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」

■連携テーマ4 「パラリンピックレガシーの創出」

- ・障害者スポーツへの理解と普及を目的に「FC東京×ブラインドサッカー◎講演会」を実施

②調布のまちの魅力発信

- ・「FC東京のまち調布」としてJリーグのホームタウンという強みを活かした事業展開が図られている。

<令和元年度における施策の成果についての総括>

- ・東京2020大会に向け、東京都の補助金を活用し、基地跡地運動広場のトイレ改修工事等、施設のバリアフリー化を進め、利用環境の向上を図った。
- ・ラグビーワールドカップ2019に向けた機運醸成や、大会で盛り上がった機運を東京2020大会につなげるべく事業展開を図った一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、スクラムフェスティバル Vol.7 等の事業が中止となった。
- ・障害者スポーツの振興を大会後も継続して図るため、福祉分野や東京都、関係団体と連携した協議体を設置し、具体的な話し合いの機会を創出することができた。

| まちづくり指標 | | 基準値 | 単位 | 実績値 | 目標値 |
|----------------------------------|--|------------------------|----|--------------|-------------|
| 【☆：基本計画におけるまちづくり指標、◎：総合戦略における指標】 | | (基準年度) | | 令和元年度 | 令和4年度 |
| 1 | 体育施設の年間利用者数【☆】 | 105万 4,986 (H29) | 人 | 91万 7,430 | 107万 |
| 2 | 運動を週に1回以上行っている市民の割合【☆、◎】 | 63.9 (H30) | % | 62.8 | 70.0 |
| 3 | FC東京と連携したスポーツ事業の参加者数【☆】 | 653 (H29) | 人 | 523 | 900 |
| 4 | 調布市における2020年オリンピック・パラリンピックに向けた取組に参加したい、または関心がある市民の割合【◎】(目標値は令和元年度) | 39.9 (H28) | % | 60.5 | <u>60.0</u> |

【備考】体育施設の年間利用者数及びFC東京と連携したスポーツ事業の参加者数の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響による施設の休場・休館及び事業の中止の影響が主な原因と考えられる。

2 令和元年度の振り返り — 評価 (CHECK)

| | | |
|------|--|--|
| 総合評価 | A | <p>S：「顕著な取組成果が得られた。計画以上に目標を達成した。」</p> <p>A：「予定した取組成果が得られた。計画どおりに目標を達成した。」</p> <p>B：「一定程度の取組成果が得られた。概ね計画どおりに目標を達成した。」</p> <p>C：「予定した取組成果が得られなかった。目標達成にはやや至らなかった。」</p> <p>D：「取組成果が得られなかった。目標達成までには至らなかった。」</p> |
| 理由 | <p>・体育施設の年間利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響により減少したものの、令和元年度はラグビーワールドカップ2019の開催年として、調布市体育協会や各競技団体等と連携・協力しながら、市民がスポーツを「する」「見る」機会を創出し、東京2020大会へとつなげるべく、市民スポーツの振興を図ったため。</p> <p>・とりわけ、パラリンピックを契機とした障害者スポーツの振興においては、福祉分野とスポーツ分野が連携した協議体を活用し、パラリンピックレガシー創出につなげたため。</p> | |

3 施策の方向 — (ACTION)

| 区分 | 今後の取組の方向 ★：重点プロジェクトに関連する取組, ●：新規の取組, ○：拡充の検討を要する取組 |
|--|--|
| 令和2年度の取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・各施設の利用者ニーズ、老朽化の状況等を踏まえた安全で利便性の高いスポーツ施設の整備 ★東京2020大会の機運醸成、大会を契機としたスポーツ振興及び「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」に基づくスポーツイベント等の実施 ★パラリンピックを契機とした障害者スポーツの振興に向け、協議体を活用した事業展開 ○FC東京等と連携したまちづくりの推進 |
| 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、各スポーツ施設の臨時休場・休館を実施 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和2年5月に開催予定の調布市民スポーツまつり、同年2年6月に開催予定の障害者スポーツ体験会及び同年9月に開催予定の市民体育祭開会式が中止となった ●調布市体育協会や、FC東京、リクシルディアーズといった市ゆかりのプロスポーツチームのほか、協定を締結した日本車いすバスケットボール連盟と連携し、市民向けに選手等から応援メッセージや「STAY HOME」中のエクササイズの紹介等を発信 |
| 東京2020大会開催延期に伴う対応 | <ul style="list-style-type: none"> ★東京2020大会コミュニティライブサイト競技体験会の延期 ●東京2020大会開催年における各種事業の延期 |
| 台風への対応を踏まえた災害対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員及び関係団体が日頃から危機意識を持つよう努める ・施設状況、気象状況、補助金等の情報収集を継続的に実施 ・施設休館等への迅速な対応を行うため、平常時から関係団体との連絡体制を整備 ・災害発生時から施設再開までの市民への適切な情報提供 |
| 令和3年度以降の計画期間内の取組 (令和2年度から継続する取組を除く) | <ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ基本法に定める地方スポーツ推進計画の策定 ★東京2020大会後のレガシーとしての障害者スポーツの振興における協議体の定着・拡充 ・施設のバリアフリー対応(障害者スポーツ実施環境の整備検討を含む)等によるスポーツ施設の環境向上 |

14 市民スポーツの振興

| No. | 事務事業名 | 重点プロジェクト事業 | 総合戦略 | 所管部署 | 事務事業の概要 |
|-----|----------------------------------|------------|------|-----------------------------|--|
| 1 | スポーツ施設の整備 | | | スポーツ振興課 | 市民が快適で安全にスポーツ施設を利用できるよう維持保全及び改修等を行う。 調布基地跡地（留保地）防災公園やスポーツ施設の再配置、整備を検討する。 ・総合体育館・西調布体育館・テニスコート（緑ヶ丘・多摩川・深大寺） ・調布基地跡地運動広場・市民野球場・市民プール・大町スポーツ施設 ・西町野球場及び少年野球場・西町サッカー場 ・多摩川児童公園内運動施設及び各ゲートボール場 |
| 2 | 調布市体育協会事業の支援 | | ● | スポーツ振興課 | 「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」の理念に基づき、調布市における体育・スポーツの振興を目的とした事業を行う。 （公社）調布市体育協会への支援や相互の協力により、市における体育・スポーツの振興や、市民の健康増進及び体力向上を図る。 |
| 3 | 東京2020大会等を契機としたスポーツ振興による多面的効果の創出 | ④ | ● | スポーツ振興課 オリンピック・パラリンピック担当 | ラグビーワールドカップ2019及び東京2020大会の会場である東京スタジアム（味の素スタジアム）及び武蔵野の森総合スポーツプラザとその周辺施設の立地市として、スポーツだけでなく文化や産業、福祉や教育など様々な分野における市内での横断的な取組や、関係団体や競技団体等との連携体制を構築することによる大会を契機としたレガシーとしての市民スポーツの振興（特に、障害者スポーツの振興）につなげる。 |
| 4 | FC東京等と連携したスポーツ振興等の推進 | | | スポーツ振興課 | プロサッカーチームFC東京が行う地域貢献活動を支援し、市民スポーツの振興、青少年の健全育成、福祉、地域振興等のまちづくりを協働で推進する。 また、地域のスポーツチームと連携した取組を推進する。 ＜実施事業＞ ・障害児・者向けサッカースクールにおける交流イベント（あおぞら交流会） ・子どもサッカー体験教室・指導者講習会 ・FC東京との定期的な情報交換会と市内プロジェクトチームを活用した連携 ・市の事業やFC東京事業への相互協力 ・FC東京の活動を市報、ホームページ、SNS等へ掲載し市民への周知を図る |

14 市民スポーツの振興

※各事務事業の概要については、巻末の「⑦事務事業概要一覧」をご参照ください。

| No. | 事務事業名 | 重点プロジェクト事業 | 総合戦略 | 所管部署 | R1 決算事業費(千円) | 令和元年度の取組実績 | 実績評価 | 進捗状況・今後の取組の方向性 | | | | | | | | 今後の取組内容 (新型コロナウイルス感染症の影響に関連する内容は冒頭に◆印を記載しています) |
|-----|----------------------------------|------------|------|------------------|--------------|---|------|----------------|-------|------|-------|-------|-------|---|--|---|
| | | | | | | | | R1 取組実績 | | | | 方向性 | | | | |
| | | | | | | | | 計画前倒し | 計画どおり | 計画遅れ | 有効性改善 | 効率性改善 | 財政面改善 | 参加と協働改善 | 改善余地なし | |
| 1 | スポーツ施設の整備 | | | スポーツ振興課 | 143,955 | 各スポーツ施設において、主に以下の改修工事等を行い、市民が快適かつ安全に施設を利用できるよう、施設の整備に努めた。なお、東京2020大会を契機とした施設のバリアフリー化については、東京都の補助金を活用して推進することができた。 ・調布市民プールトイレ改修工事 ・調布市民プールほか2箇所トイレ等建材アスベスト含有調査 ・調布市民多摩川テニスコートクラブハウス及び西調布体育館トイレ等改修工事 ・調布市総合体育館体育室床及び照明設備改修工事設計 ・調布市民緑ヶ丘テニスコートクラブハウス電気設備改修工事 ・調布基地跡地運動広場内トイレ改築ほか工事 ・総合体育館上水用・雑用水用ポンプ更新工事 | ◎ | ● | ● | ● | | | | | 今後も快適で安全なスポーツ施設とするための施設の保全・改修等を行いながら、引き続き、市民のニーズに沿った魅力ある施設の提供に努めていく。東京2020大会の開催延期による調布基地跡地等周辺施設における利用制限について、引き続き、東京都や大会組織委員会等からの情報収集を行うとともに、市民への早期の情報提供に努める。施設の老朽化対応、安全性確保を踏まえた今後の改修について、特定財源の確保にも努めながら、市民要望も踏まえて検討・調整に取り組む。 ◆新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を講じながら、市民が安心して利用できる施設管理を行う。 | |
| 2 | 調布市体育協会事業の支援 | | ● | スポーツ振興課 | 36,796 | 調布市の三大スポーツイベントである第59回調布市民体育祭(夏季・秋季大会28競技、参加者数9153人)、第37回市民スポーツまつり(参加者数1万7500人)、第64回調布市民駅伝競走大会(参加295チーム、1475人)の開催を通じて、多くの市民がスポーツに親しむ機会を創出した。 市民が気軽にスポーツや健康づくりに参加できる事業として、調布市体育協会が運営する市の補助事業「リフレッシュ体操スクール事業」を9会場28クラス実施し、市民の運動習慣のきっかけづくりに寄与した。 | ◎ | ● | ● | ● | | | | 調布市体育協会や関係団体と連携しながら東京2020大会に向けた取組を推進するとともに、調布市体育協会が実施する様々な事業を支援することで、世界的な大会を契機とした市内におけるスポーツ振興や市民の健康増進及び体力向上を図っていく。 調布市の三大スポーツイベントである市民体育祭、市民スポーツまつり、市民駅伝競走大会をはじめとしたイベント等の開催を通じて、誰もが気軽にスポーツに参加する機会を提供し、運動初心者からトップアスリートまでスポーツに関する多様な市民ニーズに対応し、一人一人が年齢や体力等に応じて身近な地域で活動できる環境づくりを進めていく。 ◆新型コロナウイルス感染症の状況を注視し、感染防止に努めながら安全に事業を実施していく。 | | |
| 3 | 東京2020大会等を契機としたスポーツ振興による多面的効果の創出 | ④ | ● | オリンピック・パラリンピック担当 | 40,370 | ラグビーワールドカップ2019及び東京2020大会を契機としたスポーツ振興を図るため、調布市体育協会や各競技団体等の関係団体と連携し、ジュニア陸上体験教室、小学生タグラグビー大会、障害者スポーツ体験会、FC東京×フラインドサッカー®講演会、スクラムフェスティバル等を開催した。また、市内で開催したハレーボール国際大会や準いすバスケケットボール国際大会、近代三種大会への協力等を通じて、市民がスポーツをする・見る機会の創出を図った。 障害福祉課や東京都等と連携し、スポーツ分野と福祉分野の関係者が共生社会の実現に向けた課題整理や情報を提供・共有する場「調布市障害者スポーツの振興における協議体」を設置、実施した。 ラグビーワールドカップ2019で盛り上がった機運を東京2020大会まで継続すべく事業展開を図ったが、一部の事業が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。 | ◎ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | パラリンピックの開催を契機とした障害者スポーツの振興について、障害者だけでなく健常者も含めた障害者スポーツに対する理解促進を目的とした体験会を様々な主体と連携して実施するほか、調布市障害者スポーツの振興における協議体を活用し、障害者スポーツの更なる普及・啓発を推進する。また、事業の実施に当たっては、特定財源の活用にも努める。 ◆東京2020大会における競技会場の地味市として、今後も東京や東京都の動向を注視するとともに、新型コロナウイルス感染症の終息時期に合わせ、近隣市や関係団体、競技団体等と連携してスポーツ関係のイベントを開催し、大会に向けた機運醸成だけでなく、大会後のレガシーを見据えた事業展開を図り、スポーツ振興に努めていく。 | | |
| 4 | FC東京等と連携したスポーツ振興等の推進 | | | スポーツ振興課 | 1,233 | 子ども向けサッカー教室(参加者数:初心者向け201人、経験者向け214人)や指導者講習会(参加者数:30人)を実施したほか、障害福祉課と連携した障害児・者対象のサッカースクール「あおぞらサッカースクール」のスクール生が他のチームと交流する「あおぞら交流会」(参加者数:78人)も実施し、市民の定期的な運動の場を提供することができた。 FC東京と協働したまちづくりを推進していく取組として、情報交換会を2回開催し、関係部署間で情報の共有を図ったほか、庁内プロジェクト・チームを活用し、FC東京との新たな連携事業や既存事業の拡充を行った。 フラッグ掲出や市SNS、ホームページ、市報を活用して、FC東京に関して、Jリーグ公式戦のほか、クラブとしての日常的な活動等について、PRや情報発信を行った。 | ◎ | ● | ● | ● | | | | 2つの子ども向けサッカー教室は、多くの方が参加を希望しニーズが高い事業であるため、継続して実施していく中で、リピーターだけでなく新規の参加者の拡充についても検討し、バランスのとれた事業展開を図っていく。 平成30年度から実施している「あおぞら交流会」は、引き続き、障害福祉課と連携して規模・回数等を検討し参加者の拡充を目指していく。 FC東京との連携事業は市民の「スポーツへの意欲・関心の向上」につながることから、今後もFC東京との定期的な情報交換の機会や、FC東京クラブ創設20周年を契機に発足した庁内プロジェクト・チームを活用することで、FC東京や各課との連携を図るとともに、事業費の活用方法の工夫も含め、より効果的な事業の実施に努めていく。 | | |
| | | | | | | | | 0 | 4 | 0 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 | 計 |
| | | | | | | | | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 75.0 | 50.0 | 25.0 | 0.0 | 割合(%) |

当該施策に体系付けられている全ての事務事業については、巻末に掲載している参考資料「⑥事務事業一覧(施策体系順)」をご参照ください。